

2017年度「書物との出会い（イ）」（近代ヨーロッパと現代）リーディングリスト

- (1) ヤーコブ・ブルクハルト（2002年）『イタリア・ルネサンスの文化』〈1〉〈2〉（訳）柴田治三郎、中公クラシックス、〈1〉（1,512円）ISBN978-4121600264、〈2〉（1,458円）ISBN978-4121600295
- (2) 学問領域：歴史学、哲学・倫理学・論理学、芸術、文学
- (3) キーワード：ルネサンス（再生、復興）、近代文化、古代文化、人文主義、イタリア的
- (4) 難易度：2
- (5) 高校でルネサンスが近代文化の始まりであることを習ってきたと思います。この見方は、今から150年以上前に書かれたこの書から始まります。今読んでも瑞々しいエピソードに溢れています。著者はルネサンス、従って近代文化の明を描くとともに、暗も示しています。この明と暗を通じて、今の私たちがどう生きていくかにも示唆を与えてくれます。
- (6) 推薦者：中谷博幸（教育学部）

- (1) ヤーコブ・ブルクハルト（2000年）『ブルクハルト文化史講演集』（訳）新井靖一、筑摩書房、6,696円 ISBN978-4480861146
- (2) 学問領域：歴史学、哲学・倫理学・論理学、芸術、文学
- (3) キーワード：文化史、古代ギリシア、芸術、宗教、ネーデルラント
- (4) 難易度：1
- (5) 歴史家ブルクハルトは、いろんな機会に多くの講演を行ないました。特にバーゼル市民への講演を彼の仕事の中心と見なしていました。本書はそのような講演の一部を集めたものです。特に芸術に触れたものに特色があります。まずは気に入ったテーマがあれば、それを読んでみて下さい。歴史の広がりが見えてきます。
- (6) 推薦者：中谷博幸（教育学部）

- (1) ヤーコブ・ブルクハルト（2009年）『世界史的考察』（訳）新井靖一、ちくま学芸文庫、1,620円 ISBN978-4-480-09226-7
- (2) 学問領域：歴史学、哲学・倫理学・論理学、芸術、文学
- (3) キーワード：歴史、文化、危機、個人と普遍、幸と不幸
- (4) 難易度：2
- (5) 本書はブルクハルトがバーゼル大学で行なった講義草稿を編纂したものです。「私たちの出発点は、ただひとつの恒常的で私たちにとって可能な中心点、すなわち、忍苦し、努力し、行動する人間である。」という観点から、歴史研究の問題点、文化が栄える条件、歴史における個人の役割、偉大さとは何か、歴史における幸・不幸などについて論じています。本書も関心のある章から読み進めて下さい。
- (6) 推薦者：中谷博幸（教育学部）

- (1) 御子柴義之 (2015年) 『自分で考える勇気 カント哲学入門』、岩波ジュニア新書、907円、ISBN : 978-4005007981
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 理性、批判、自律、啓蒙
- (4) 難易度 1
- (5) 「カントの原典にいきなり挑戦するのはちょっと…」と思っているみなさんに、まず読んでもらいたい一冊。身近な出来事とのつながりで、カント哲学のエッセンスと「自分で考えること」の大切さを教えてくれる。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) 石川文康 (1995年) 『カント入門』、ちくま新書、907円、ISBN : 978-4480056290
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 理性、批判、認識、道徳、美
- (4) 難易度 1
- (5) 理性自体に人間を欺く可能性がある—このショッキングな事実の発見こそがカント哲学の出発点だとして、そこから著者はカント哲学の全体像を読み解いていく。本書を読むと、哲学もまたドラマチックな展開を持っているということがよくわかる。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) カント (1985年) 『永遠平和のために』 (訳) 宇都宮芳明、岩波文庫、560円、ISBN : 978-4003362594
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学・論理学、歴史学
- (3) キーワード : 平和、歴史、理想
- (4) 難易度 2
- (5) 最近の安保法案をめぐる議論でもしばしば引用される古典。何のために「永遠平和」(=一切の敵意の解消) という理念を掲げる必要があるのか、丁寧に論じており学ぶところが多い。「平和主義なんて、結局たんなる理想論でしょ？」と考えている人にこそ読んでもらいたい一冊。
- (6) 推薦者 : 佐藤慶太 (大学教育基盤センター)

- (1) J・S・ミル(2012年) 『自由論』 (訳) 齊藤悦則、光文社、1145円、ISBN:9784334752507
- (2) 学問領域 : 哲学・倫理学、政治学、歴史学
- (3) キーワード : 自由、功利主義、幸福、権利
- (4) 難易度 2
- (5) 功利主義の立場から自由を最大限に認めあうことが個人にとっても社会にとっても有益であることを論じた本。「自由」について考えるための最も基本になる必読の名著である。
- (6) 推薦者 : 石川徹 (教育学部)

- (1) J・S・ミル (1960年) 『ミル自伝』 (訳) 朱牟田夏雄 ISBN: 9784003411681 絶版
- (2) 学問領域: 哲学・倫理学、文学、政治学、教育学
- (3) キーワード: 功利主義、幸福、教育
- (4) 難易度 2
- (5) 自分の人生を誠実に振り返って書かれた最良の自伝の一つ。他分野にわたり大きな業績を残したミルの入門書としても役立つ。
- (6) 推薦者: 石川徹 (教育学部)

- (1) 直江清隆・越智貢 (編) (2012年) 『自由とは』 (高校倫理からの哲学 4)
岩波書店、1620円、ISBN:9784000285445
- (2) 学問領域: 哲学・倫理学、政治学、教育学
- (3) キーワード: 自由 運命、社会、必然性
- (4) 難易度 2
- (5) 自由の多義性を対立項をはっきりさせることで明示し、それぞれ身近なところから、どのような問題があるのかを明示して考えさせてくれる。少しずつ考えながら読むことをすすめる。
- (6) 推薦者: 石川徹 (教育学部)

- (1) 犬塚孝明 (2001年) 『密航留学生たちの明治維新——井上馨と幕末藩士』 日本放送出版協会、絶版
本、ISBN-10: 4140019212
- (2) 学問領域: 歴史学
- (3) キーワード: 留学生、日本の近代化
- (4) 難易度 2
- (5) 現代は本人のやる気さえあれば誰でも留学できる時代である。しかし、150年前は「見つければ死罪」という命がけの行為であった。近代化を果たしたヨーロッパを「自分の目で見てみたい!」と、幕末に密航留学した若者たち (例えば伊藤博文) によって、日本の近代化が進められた。映画『長州ファイブ』の背景を知るために必読の書である。
- (6) 推薦者: 山本珠美 (生涯学習教育研究センター)

- (1) 梅溪 昇 (2007年) 『お雇い外国人——明治日本の脇役たち』 講談社学術文庫、972円、ISBN-10: 4061598074
- (2) 学問領域: 歴史学
- (3) キーワード: 明治維新、日本の近代化
- (4) 難易度 1
- (5) 「お雇い外国人=日本を世界一流レベルに引き上げるために雇われた外国人」と言ってしまうのは誰だろう。ハリルホジッチ (サッカー日本代表監督) か、エディー・ジョーンズ (元ラグビー日本代表 HC) か。平成の世の彼らだけでなく、明治時代の「お雇い外国人」たちが日本の近代化に向けて奮闘努力した様も、ぜひ知って欲しい!
- (6) 推薦者: 山本珠美 (生涯学習教育研究センター)

- (1) 山本昭宏 (2015 年) 『核と日本人——ヒロシマ・ゴジラ・フクシマ』 中公新書、950 円、ISBN-10 : 4121023013
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：原子力
- (4) 難易度 1
- (5) ヨーロッパやアメリカの先端的学問を必死に学んで近代化を果たした日本。1945 年にはそれら先端的学問の一つの帰結である原子爆弾による甚大な被害を受けた。日本人は果たしてこの原子力とどう向き合おうとしてきたのか。学界、政界、経済界のみならず、マンガやアニメなどのポピュラーカルチャーの動きにも目を向けつつ、1945 年以降現在までの日本人と原子力との関係を読み解いたエキサイティングな本。
- (6) 推薦者：山本珠美 (生涯学習教育研究センター)

- (1) 竹内洋 『立志・苦学・出世—受験生の社会史』 (講談社学術文庫、2015 年、846 円、978-4062923187)
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 受験
- (4) 難易度 2
- (5) 幕藩体制の崩壊後、当時の若者たちは、新たなる制度の下、如何なる取り組みで生涯を渡っていかうとしたのだろうか？今日にも通じる「受験」についての、私達の先達の営為を俯瞰して読み取ることができます。
- (6) 推薦者：山本裕 (経済学部)

- (1) 松沢裕作 『自由民権運動—〈デモクラシー〉の夢と挫折』、岩波新書、2016 年、886 円、978-4004316091
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 自由民権
- (4) 難易度 2
- (5) きっと一度は聞いたことがある「自由民権運動」。この問題を、近世社会からの連続で捉え、当時の人々の生き様からとらえ返そうとする、新しい歴史像の構築を試みています。「歴史の中の昔の出来事」ではない、歴史が、そこにあります。
- (6) 推薦者：山本裕 (経済学部)

- (1) 成田龍一 『大正デモクラシー—シリーズ日本近現代史〈4〉』、岩波新書、2007 年、885 円、978-4004310457
- (2) 学問領域：歴史学
- (3) キーワード：日本の近代化 大正デモクラシー
- (4) 難易度 2
- (5) 「明治」と「昭和」に挟まれた、短い「大正」時代。この時代を、デモクラシーというキーワードで、総合的な観点から議論しています。ここでも、当時の時代を精一杯生きようとした人々の軌跡と、なぜそのように生きたのか？を読み取ることができます。
- (6) 推薦者：山本裕 (経済学部)

- (1) 魯迅作・竹内好訳 (2016年) 『阿Q正伝・狂人日記 他十二編 (呐喊)』岩波文庫、ISBN4-00-320252-X、680円+税
- (2) 学問領域：文学、社会学
- (3) キーワード：魯迅、呐喊 (とっかん)、近代中国、封建社会、社会変革
- (4) 難易度 1
- (5) 日本でも愛読者の多い魯迅の代表的な短編小説集であり、現実描写とユーモア満載の創作手法は特徴的である。「狂人」、「阿Q」などの人物を描くことによって、近代中国社会の救いがたい病根とは何かを問いかける。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 藤井省三 (2011年) 『魯迅』岩波新書、ISBN978-4-00-431299-4、800円+税
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：魯迅、近代中国、日本留学、都市遍歴
- (4) 難易度：2
- (5) 魯迅の「生涯を東アジアの都市遍歴という視点でたどった評伝」である。近代中国社会を題材とする魯迅の文学は現代中国や東アジアに何を残してくれたのか、作者藤井省三の理解を通して吟味していこう。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

- (1) 川島真 (2010年) 『近代国家への模索 1894-1925』(シリーズ中国近現代史②) 岩波新書、ISBN978-4-00-431250-5、820円+税
- (2) 学問領域：歴史学、社会学
- (3) キーワード：近代国家、清王朝、辛亥革命、中華民国、割拠
- (4) 難易度：3
- (5) 近代中国は諸列強に侵略される半植民地国家と化した。しかし「近代化」が西欧諸国からアジアに伝わってくる過程において中国の「知識人・有志」は日本と同じように「救国」について悩み、近代化への道を模索していた。
- (6) 推薦者：張曉紅 (経済学部)

「書物との出会い・男と女」リーディング・リスト 2017

- (1) 若桑みどり (2003) 『お姫様とジェンダー』ちくま新書、740 円、ISBN-10 : 4480061150
 - (2) 学問領域：社会学、ジェンダー・スタディーズ
 - (3) キーワード：ジェンダー
 - (4) 難易度 2
 - (5) 白雪姫、シンデレラ、眠り姫などのディズニーアニメをジェンダーの視点から読み解く。筆者の授業を受けた学生の感想も掲載されており、この本を読み終えた後には、これまでとは異なったディズニーアニメの見方ができるようになっているはず。
 - (6) 推薦者：西本佳代 (大学教育基盤センター)
-
- (1) 本橋哲也 (2015) 『ディズニー・プリンセスのゆくえ』ナカニシヤ出版、2160 円、ISBN-10: 4779510589
 - (2) 学問領域：社会学、カルチュラル・スタディーズ
 - (3) キーワード：ディズニー
 - (4) 難易度 2
 - (5) 白雪姫やシンデレラといったディズニーアニメから、近年の実写版シンデレラやマレフィセントまでを題材として扱い、カルチュラル・スタディーズの側面からディズニー・プリンセスについて考察した本。上記の『お姫様とジェンダー』と比較してみるとそれぞれの視点が際立って面白い。
 - (6) 推薦者：西本佳代 (大学教育基盤センター)
-
- (1) 伊藤公雄・牟田和恵編 (2015) 『ジェンダーで学ぶ社会学 (全訂新版)』世界思想社、1,944 円、ISBN : 4790716686
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：ジェンダー、社会学
 - (4) 難易度 2
 - (5) 「育つ」「学ぶ」からはじまり「シェーカツする」「愛する」「ケアする」等、この本ではトピックごとにジェンダーについて学ぶことができる。社会学領域におけるジェンダー論の基本はもちろんのこと、変化球も組み込まれており、何かしらの新しい視点を提示してくれるはず。
 - (6) 推薦者：西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 岩上真珠 (2013) 『ライフコースとジェンダーで読む家族 (第3版)』有斐閣、2,052 円、
ISBN:978-4-641-17396-5
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：ライフコース、ジェンダー、家族、近代家族
 - (4) 難易度 1
 - (5) 少子高齢化、個人化が進む現代社会において、家族はどう変化してきたか、ライフコースとジェンダーの視角から解説した現代家族社会学の入門書。この書物を契機として、これからの個人の生き方と、家族生活のあり方という、個人の生涯にとっても重要な問題を、ぜひ自分の問題としてとらえ考察してほしい。
 - (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)
-
- (1) 上野千鶴子 (2010) 『女ざらいーニッポンのミソジニー』紀伊国屋書店、1,620 円、
ISBN:978-4-314-01069-6
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：ミソジニー、性の二重基準、自己嫌悪、現代社会
 - (4) 難易度 3
 - (5) 男性にとっての「女性嫌悪」、女性にとっての「自己嫌悪」に着目して、様々な角度から現代社会を解説しながら、「男社会」の現実を解剖していく書である。ジェンダー研究のパイオニアとされる著者が、「どんなに不快であれ、そこから目をそむけてはならない現実」として書き継ぎ、「それを知ることによって、それがどんなに困難でも、その現実を変えられる可能性がある」とし、「共感も反感も含めて、本書には波紋を拡げてほしい」と言っている。
 - (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)
-
- (1) 水無田気流 (2015) 『「居場所」のない男、「時間」のない女』日本経済新聞出版社、1,404 円、
ISBN : 978-4-532-16955-8
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：近代家族、男性問題、ワークライフバランス、サラリーマン家庭
 - (4) 難易度 2
 - (5) 現代の日本人男性は、仕事以外の人生の選択肢に乏しく「世界一孤独」とされ、日本人女性は、婚活・妊活などのタイムリミットに追われ続けて自分の時間が確保できない状況におかれている。サラリーマンの夫と妻という現代の家族のありように、本当に幸福なのかと疑問を投げかけ、男女ともに幸福になるための方法論を展開している。現在の気鋭の社会学者による書であり、かなり個性が強いので、十分に読み込んだ上でしっかり反論してもらいたい。
 - (6) 推薦者：時岡晴美 (教育学部)

- (1) 田中俊之『男がづらいよー絶望の時代の希望の男性学ー』、KADOKAWA、2015年
ISBN：404601119X
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：男性学
 - (4) 難易度1
 - (5) 男性の人生は「卒業→就職→結婚→定年」という一本道の生き方が「普通」とされ、一種のステータスにもなっていた。しかし、この「普通」にこそ、男性の生きづらさの根本原因があるのではないだろうか。
 - (6) 推薦者：高田 純（保健管理センター）
-
- (1) 青野篤子・森永康子・土肥伊都子著『ジェンダーの心理学改訂版』、ミネルヴァ書房、2004年
ISBN：4623041530
 - (2) 学問領域：心理学
 - (3) キーワード：ジェンダー
 - (4) 難易度2
 - (5) 男は強く、女は優しい。このような男女の意識はどのように生まれ、心の中に定着していくのか。思いこみ・ステレオタイプをキーワードに社会心理学の立場から解き明かしていく一冊。
 - (6) 推薦者：高田 純（保健管理センター）、
-
- (1) 河合隼雄（2008）『とりかえばや、男と女』新潮社、1,296円、ISBN:4106036169
 - (2) 学問領域：心理学
 - (3) キーワード：ジェンダー、深層心理
 - (4) 難易度2
 - (5) 『とりかえばや物語』は、平安時代に描かれた男女逆転の物語である。「男らしさ」とは？「女らしさ」とは？物語からみえてくる、ジェンダーと性愛の深層を心理学の立場から読み解いていく。
 - (6) 推薦者：高田 純（保健管理センター）

- (1) 阿部謹也 (2007) 『西洋中世の男と女』 ちくま学芸文庫、1,399 円、ISBN : 9784480091024
- (2) 学問領域 : 歴史学
- (3) キーワード : 結婚、性愛、キリスト教
- (4) 難易度 2
- (5) 愛とは何かという観念的な話ではなく、その実態について関心がある人にとっては面白い本だと思う。中世キリスト教の支配下における性愛と結婚の実態について、王侯から民衆まで、社会各層の事情を知ることができる。
- (6) 推薦者 : 斉藤和也 (経済学部)

- (1) プラトン (2013) 『饗宴』 中澤務訳、光文社文庫、1,008 円、ISBN : 9784334752767
- (2) 学問領域 : 哲学
- (3) キーワード : エロス、イデア、少年愛
- (4) 難易度 2
- (5) 人間は美しいものを求める存在であり、それに向かわせる衝動がエロスである。このような意味での愛について考えようとするときに、この本は明確な観念を与えてくれる。この本は、プラトン自身によるイデア論への入門書でもあるが、少年愛など当時の恋愛事情についても情報を与えてくれる。
- (6) 推薦者 : 斉藤和也 (経済学部)

- (1) 納富信留『プラトン『饗宴』2013年7月(100分 de 名著)(ムック)』NHK出版、絶版、ISBN:978-4142230280
- (2) 学問領域 : 哲学
- (3) キーワード : エロス、イデア、少年愛
- (4) 難易度 1
- (5) プラトンの『饗宴』を扱ったNHK番組「100分 de 名著」のテキスト。日本のプラトン研究をリードする研究者による正確で分かりやすい解説書。哲学が苦手という人にはまず手にとってほしい一冊。哲学は意外に面白いと思えるはず。
- (6) 推薦者 : 斉藤和也 (経済学部)

- (1) 清水克之『耳鼻削ぎの日本史』洋泉社、2015年、950円、ISBN：978-4-8003-0670-8
- (2) 学問領域：歴史学（日本史）
- (3) キーワード：身体刑、習俗、性差、人間観
- (4) 難易度3
- (5) 前近代の日本列島で行われていた耳鼻削ぎの身体刑は、鎌倉時代の地頭の非法行為として高校の日本史教科書にも登場するなど、よく知られているところである。しかし、耳鼻削ぎの習俗は、おもに女性に対して行われた身体刑であることはあまり知られていない。本書は、その習俗が存在した歴史的意味を理解し、いまでも現実に世界で行われているこうした習俗について、考えるきっかけになるであろう。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 池上俊一『身体の中世』筑摩書房、2001年、1,500円、ISBN：4-480-08666-8
- (2) 学問領域：歴史学（西洋史）
- (3) キーワード：身体、表象、感性、人間観
- (4) 難易度3
- (5) 西洋中世社会における人間や人間の身体、あるいは目や耳など人間を構成する様々な部位等に対する認識のあり方、または人間の表情やしぐさのあり方について広く考察したものである。本書は「男と女」の論点にとどまらず広い視野で論が展開しているが、講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な角度から「男と女」がどう認識されてきたか、理解を深めることができる。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 下重清『身売りの日本史』吉川弘文館、歴史文化ライブラリー、2012年、1,800円、ISBN：978-4-642-05741-7
- (2) 学問領域：歴史学（日本史）
- (3) キーワード：人身売買、年季奉公
- (4) 難易度2
- (5) 本書は、日本の「身売り」の習俗について古代から現代まで広く扱ったものである。講義内容をふまえて「男と女」の視点から読み解くことで、様々な「身売り」の特質を理解することができる。そして、いまでも現実に世界で起こっている人身売買について、その歴史的深層を理解し、人間そのものについて考えるきっかけともなる筈である。
- (6) 推薦者：守田逸人（教育学部）

- (1) 黒川伊保子『キレル女懲りない男―男と女の脳科学』ちくま新書 2012年 821円
ISBN-13: 978-4480066978
 - (2) 学問領域：心理学
 - (3) キーワード：ジェンダー、脳科学
 - (4) 難易度2
 - (5) 些細なひと言に突然キレル。昔のことを蒸し返す。根拠なしに「絶対これがいい」と断言する。確かに女性脳は厄介だが、強い味方になって奇跡をも起こす。男女脳の違いを解きながら、わかりあうための処方箋が示される。
 - (6) 推薦者：村上弥生（男女共同参画推進室）
-
- (1) 室井舞花『恋の相手は女の子』岩波ジュニア新書 2016年 929円 ISBN-13: 978-4005008292
 - (2) 学問領域：社会学
 - (3) キーワード：LGBT、ジェンダー
 - (4) 難易度1
 - (5) 初恋は女の子。同性を好きになるわたしはまちがっているのか？ 誰にも悩みを打ち明けられなかった10代から、彼女との「新郎のいない」結婚パーティーまで、著者自身の体験と、他当事者のエピソードを交え、「多様性に寛容な社会」への思いが語られる。
 - (6) 推薦者：村上弥生（男女共同参画推進室）
-
- (1) 柳田國男『妹の力』 角川ソフィア文庫 2013年 802円 ISBN-13: 978-4044083168
 - (2) 学問領域：民俗学
 - (3) キーワード：民俗学、柳田國男、女性
 - (4) 難易度3
 - (5) かつて女性には神秘の力があるとされ、祭祀を取り仕切り、信仰の対象にもなっていた。女性に託されていたものとはなにか。全国の民間伝承や神話などを丹念に検証し、担っていた役割を明らかにした書。「遠野物語」で有名な柳田の女性の力についての著作集。日本人の心の基層にあるものを確認できる。
 - (6) 推薦者：村上弥生（男女共同参画推進室）

2017年度「書物との出会い（ハ）」（映像と書物）リーディングリスト

- (1) 船津衛 (2010年) 『コミュニケーション・入門 改訂版』有斐閣アルマ、1944円、ISBN: 9784641123960
- (2) 学問領域：社会学、社会心理学
- (3) キーワード：コミュニケーション、自我
- (4) 難易度1
- (5) コミュニケーションとは、主体間で繰り広げられる表現、解釈、伝達の行動です。この本は、この原理に立ち戻り、心のなかから、個人間、個人と集団、マスメディア、インターネットに至るまで、包括的にかつ分かりやすくコミュニケーションを解説しています。
- (6) 推薦者：武重雅文（名誉教授）

- (1) 池上嘉彦 (1984年) 『記号論への招待』岩波新書、864円、ISBN：9784004202585
- (2) 学問領域：言語学、記号論
- (3) キーワード：コミュニケーション、記号、文化
- (4) 難易度2
- (5) コミュニケーションに必須の、言葉に代表される記号は、われわれの認識や思考に重要な役割をはたす。本書は、言語学から生まれた記号に関する理論を用いて、コミュニケーションにおける意味の生成、変化を解説した、当該分野の代表的入門書。
- (6) 推薦者：武重雅文（名誉教授）

- (1) ヴァルター・ベンヤミン (1999年) 『複製技術時代の芸術』佐々木甚一編集、晶文社クラシックス、ISBN：9784794912664
- (2) 学問領域：美学、哲学
- (3) キーワード：複製(コピー)文化、アウラ(オーラ)
- (4) 難易度3
- (5) オーラといえ、人を取り巻くある種の輝きとして、皆さんもよく使われる言葉でしょう。ベンヤミンは、本書でオリジナルの芸術作品がもつ輝きとして、この言葉(アウラ)を用い、映画などを例に複製技術時代の芸術の変容について論じています。
- (6) 推薦者：武重雅文（名誉教授）

- (1) 小林秀雄 (1961年) 『モーツァルト・無常という事』新潮文庫、562円、ISBN 978-4101007045
- (2) 学問領域：文学、芸術
- (3) キーワード：モーツァルト、はしるかなしみ、ト短調、芸術、文学
- (4) 難易度：3
- (5) 本書は、モーツァルトの音楽の解説でも、研究でもありません。小林は彼の音楽の本質をト短調に見だし、それを文学で表現しようと思いました。こう書いています。「僕の文章にト短調の調子がひびいてくれれば良いと云ふ覚悟で書いたのであります。文章自体の調子がさう云ふ風にひびいてくれればモーツァルトの像を書き得たと思つて居ります。」本書をじっくり読めば、響いてくるから不思議です。文学の力です。
- (6) 推薦者：中谷博幸（教育学部）

- (1) 吉田秀和 (2008年) 『モーツァルトをきく』 ちくま文庫、1296円、ISBN978-4480423948
- (2) 学問領域：芸術、文学
- (3) キーワード：モーツァルト、芸術、文学、音楽、演奏
- (4) 難易度：1
- (5) 吉田は、戦後早くから、海外で優れた演奏を実際にたくさん聴き、それを広く深い教養をベースに、人々に分かりやすく言葉で表現した人です。演奏家論は彼から本格的に始まります。本書の一番の魅力は、読んでみると、モーツァルトを聴きたくなることです。
- (6) 推薦者：中谷博幸 (教育学部)

- (1) 磯山 雅 (2014年) 『モーツァルト』 ちくま学芸文庫、1,296円、ISBN978-4480095770
- (2) 学問領域：芸術、歴史学
- (3) キーワード：モーツァルト、芸術、音楽、歴史
- (4) 難易度：1
- (5) 磯山は、バッハの音楽を中心に研究する学者です。現代の学問研究を踏まえて、モーツァルトの音楽や生涯について、分かりやすく述べています。
- (6) 推薦者：中谷博幸 (教育学部)

- (1) 堀内修 (2013年) 『ワーグナーのすべて』 平凡社新書、907円、ISBN：9784582856682
- (2) 学問領域：芸術
- (3) キーワード：ワーグナー、オペラ、ドイツ、舞台芸術、音楽
- (4) 難易度1
- (5) ワーグナー生誕200年の2013年に、ワーグナー関連の書物が数多く出版されたが、その中で一番入門的な一冊。現代のワーグナー上演の演出傾向から説き起こし、ワーグナーの作品についてわかりやすく解説している。
- (6) 推薦者：最上英明 (大学教育基盤センター)

- (1) 石川栄作 (2013年) 『トリスタン伝説とワーグナー』 平凡社新書、950円、ISBN：9784582856687
- (2) 学問領域：芸術、文学
- (3) キーワード：ワーグナー、オペラ、ドイツ、中世文学、音楽
- (4) 難易度1
- (5) ワーグナーのオペラの中から『トリスタンとイゾルデ』を取り上げ、中世のトリスタン伝説にまで遡って、オペラの台本を分析している。ヨーロッパの中世騎士文学に興味のある人にもお勧め。
- (6) 推薦者：最上英明 (大学教育基盤センター)

- (1) マルティン・ゲック (2013年) 『ワーグナー』 (上)(下) 岩波書店、各3780円、(上) ISBN: 9784000259385、(下) ISBN: 9784000259392
- (2) 学問領域：芸術
- (3) キーワード：ワーグナー、オペラ、ドイツ、舞台芸術、音楽
- (4) 難易度3
- (5) ワーグナーの本格的な評伝では最新のもの。ワーグナーの作品を、生涯を追いながら、きわめて詳細に分析している。入門的な本だけでは物足りない人向け。一部の章だけ読んでも構わない。
- (6) 推薦者：最上英明 (大学教育基盤センター)

- (1) 若桑みどり (2003) 『お姫様とジェンダー』ちくま新書、740 円、ISBN-10 : 4480061150
- (2) 学問領域 : 社会学、ジェンダー・スタディーズ
- (3) キーワード : ジェンダー
- (4) 難易度 2、推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)、
- (5) 白雪姫、シンデレラ、眠り姫などのディズニーアニメをジェンダーの視点から読み解く。筆者の授業を受けた学生の感想も掲載されており、この本を読み終えた後には、これまでとは異なったディズニーアニメの見方ができるようになっているはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 本橋哲也 (2015) 『ディズニー・プリンセスのゆくえ』ナカニシヤ出版、2160 円、ISBN-10 : 4779510589
- (2) 学問領域 : 社会学、カルチュラル・スタディーズ
- (3) キーワード : ディズニー
- (4) 難易度 2、推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)、
- (5) 白雪姫やシンデレラといったディズニーアニメから、近年の実写版シンデレラやマレフィセントまでを題材として扱い、カルチュラル・スタディーズの側面からディズニー・プリンセスについて考察した本。上記の『お姫様とジェンダー』と比較してみるとそれぞれの視点が際立って面白い。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 伊藤公雄・牟田和恵編 (2015) 『ジェンダーで学ぶ社会学 (全訂新版)』世界思想社、1,944 円、ISBN-10 : 4790716686
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : ジェンダー、社会学
- (4) 難易度 2
- (5) 「育つ」「学ぶ」からはじまり「シェーカツする」「愛する」「ケアする」等、この本ではトピックごとにジェンダーについて学ぶことができる。社会学領域におけるジェンダー論の基本はもちろんのこと、変化球も組み込まれており、何かしらの新しい視点を提示してくれるはず。
- (6) 推薦者 : 西本佳代 (大学教育基盤センター)

- (1) 白倉伸一郎 (2004 年) 『ヒーローと正義』子どもの未来社、絶版、ISBN:9784901330428
- (2) 学問領域 : 社会学
- (3) キーワード : 特撮ヒーロー、正義、プロデューサー
- (4) 難易度 1
- (5) 「特撮ヒーロー番組なんて、所詮子どもだましでしょ」なんてあなたが思っているのだとしたら大間違い！特撮ヒーロー番組の見え方だけでなく、「社会」の見え方も変わってしまう、推薦者一押しの一冊です。
- (7) 推薦者 : 葛城浩一 (大学教育基盤センター)

- (1) 鈴木美潮 (2015 年)『昭和特撮文化概論 ヒーローたちの戦いは報われたか』集英社クリエイティブ、1,500 円、ISBN:9784420310710
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：特撮ヒーロー、時代と世相、新聞記者
- (4) 難易度 2
- (5) 特撮ヒーロー番組に時代と世相が如実に反映されていることがよくわかります。特撮ヒーロー番組に限らず、その背景まで理解することによって見え方が変わることを（改めて）気づかせてくれる一冊です。
- (6) 推薦者：葛城浩一（大学教育基盤センター）

- (1) 宇野常寛 (2011 年)『リトル・ピープルの時代』幻冬舎、907 円（文庫）、ISBN:9784344423244
- (2) 学問領域：社会学
- (3) キーワード：村上春樹、仮面ライダー、震災、現代社会論、評論家
- (4) 難易度 3
- (5) 特撮ヒーロー番組（特に仮面ライダー）について、戦後日本の変貌との関連から「大真面目に」論じている一冊。「こんな風に解釈することができるのか！」と思わず唸られること間違いありません。質的にも量的にも（600 頁弱）読み応え十分です。
- (6) 推薦者：葛城浩一（大学教育基盤センター）

- (1) 杉田俊介 (2014 年)『宮崎駿論 神々と子供たちの物語』NHK ブックス、1620 円、ISBN:978-4140912157
- (2) 学問領域：芸術、哲学・倫理学、社会学
- (3) キーワード：アニメーション、自然、仕事
- (4) 難易度 2
- (5) ジブリアニメのそれぞれの作品のモチーフ、作品内容の変遷を非常にうまく整理した好著。ジブリアニメが現代社会の問題と密接なつながりを持っていることもわかる。作品の見方を変える一冊。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) 宮崎駿 (2013 年)『風の帰る場所』文春ジブリ文庫、702 円、ISBN：978-4168122026
- (2) 学問領域：芸術、哲学・倫理学、社会学
- (3) キーワード：アニメーション、日本、世界観
- (4) 難易度 1
- (5) 『風の谷のナウシカ』から『千と千尋の神隠し』までの軌跡を、宮崎駿自身が語るインタビュー集。それぞれの作品の根底にある思想、葛藤、希望などが、生き生きとした言葉で語りだされている。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）

- (1) エリアーデ (2014 年)『聖と俗〈新装版〉』法政大学出版局、3132 円、ISBN：978-4588099762
- (2) 学問領域：哲学・倫理学、宗教学
- (3) キーワード：宗教、ヒエロファニー（聖体示現）、聖と俗
- (4) 難易度 2
- (5) 宗教の本質を「聖なるものの現われ」とし、この図式に基づいて様々な現象を分析していくエリアーデの思想は、それ自体としても興味深い、作品理解や社会現象分析のための強力なツールにもなる。また「宗教とは何か？」という問題を新たな視点から考えることもできるだろう。
- (6) 推薦者：佐藤慶太（大学教育基盤センター）